

多文化交流実習レポート

文教育学部芸術表現行動学科 2年

森田 真奈子

1. 参加の動機・目的

長年韓国には興味があり、一度訪れたい国のひとつだった。韓国は、日本と最も近い国であるがゆえに、領土問題や植民地支配時代の傷跡など政治的に何かともめることが多い。一方、ドラマや音楽など文化的に共有するものが多く、両国民同士の交流も非常に盛んである。私自身、中学生の頃に韓国ドラマをきっかけに韓国に興味を持ったが、大学では、韓国人の留学生と知り合い、植民地支配や北朝鮮の問題を一緒に考えるなど深い交流をするようになった。そして最も身近であるが、協働には様々な障壁も存在する韓国への関心が高まり、実際に目で見て、感じ、考えたいと思い、韓国での短期留学を希望した。今回の淑明女子大のプログラムは、韓国語の語学研修だけではなく、英語で東アジアの諸問題を勉強できる点が良いと感じた。また、日本人と韓国人だけではなく、その他様々な国の人も一緒に勉強できる環境であることも魅力的であると思い、参加を決めた。

2.1 多文化交流実習Ⅰ International Political Economy(IPE) and East Asia

IPEとは政治学や経済学を中心に様々なパースペクティブを使って世界を分析するツールである。IPEの授業では、最初に自由主義経済、重商主義、構造主義など経済学の基本的な概念を学び、その後、貿易、財政、債務、安全保障、知的財産といった現在の国際政治経済の構造を学んだ。また、後半には、環境問題やアジア通貨危機、中国やインドの台頭など具体的なテーマを扱い、IPEの視点からそれらの分析を試みた。経済の初心者であった私にとって、このような内容を英語で理解するのは難しかったが、講義の後のグループディスカッションで多様な意見を聞いたのはとても面白く、講義の内容もディスカッションを通して理解を深めることができた。人権問題や環境破壊に関する中国の学生の意見や、アメリカの財政危機、不景気に対するアメリカ人の意見を聞いたのは特に興味深かった。「中国では実際は政府批判をすることはできるが、ネットの制限は厳しく、韓国に来て You Tube や Facebook を初めて使った」「トヨタのリコール問題は、自国車を売るためにアメリカ企業が意図的に作り出した問題だ」など、日本での報道を通してではわからない生の意見を聞くことができ、驚くような意見も多かった。

授業全体を通して、経済は人の生活や行動、イデオロギーまでも支配するものであり、現代社会では政治にも増して、経済が人々の生活のあり方を決めていることに気付かされた。経済学は単に利益を生み出すための学問ではなく、人の生き方に密接に関連した哲学に基づく学問のように感じられた。初めての経済学を英語で学ぶのはかなりの苦勞ではあったが、経済学に対するイメージも変化し、良い経験になったと感じている。

2.2 多文化交流実習Ⅱ Korean language for foreigner level 2

韓国語は、最初に簡単な面接テストを受け、私は日常会話を中心に勉強するクラスに入った。最初の面接では本当に簡単な会話しかできない状態だったが、全授業が終わる頃にはかなりの上達が感じられた。

特に、授業の9割程度は韓国語のみで行われ、先生が初心者でも分かるように工夫して話して下さったことが、上達にとって非常に良かったと思う。日本で学習するよりもはるかに早いペースで学ぶことができ、言葉を現地で学ぶことの大切さを体感した。発問を頻繁にして下さったり、ゲームで単語を覚えたりと様々な工夫がなされており、毎日楽しく授業を受けることができた。

韓国語はドラマや歌でよく耳にしていたため、それらが文法的に整理され理解できるようになるのは本当に楽しかった。また、韓国語は日本語ととてもよく似ているため、英語などに比べ、一度理解すると次々実用できるようになり、韓国の学生との会話や生活の中での会話で実際に使うことができた。日本に帰国後、出発前にみていた韓国ドラマを見てみると、聞き取れる単語が驚くほど増えていて、とても嬉しかった。あと少し基本的な文法を勉強し、単語を増やしていけば、簡単な日常会話はかなり話せるように思う。大学の韓国の留学生とも交流しながら、今後も韓国語を必ず継続して勉強したいと思っている。

2.3 ショートビジットで学んだこと

2.3.1 海外生活での学び

今回の滞在の中で最も印象強い出来事だったのは、北朝鮮との国境線近くの烏頭山展望台を訪れたことだった。展望台の施設内には北朝鮮の暮らしに関する展示や映像があり、政治犯収容所の様子や飢餓、貧困、軍事政権の権力濫用に関する映像は、日本ではみたことのないものが多く、目を背けたくなるものが多かった。私は展望台へ行く前に、それらの映像ですっかりショックを受けてしまったが、一緒に行った韓国の友人が「北朝鮮はダメな国で韓国は良い国みたいに展示している。韓国を美化しているだけだ」と言っていたのも考えさせられる一言だった。

展望台へ登ると、イムジン川を挟んだすぐ先に北朝鮮がみえ、思った以上に近くだった。テレビなどで様々なことが取り上げられる北朝鮮は、韓国や日本とは全く違うフィルターのような何かに包まれた未知の世界というイメージを持っていた。しかし、実際に見てみると、フィルターなどあるわけもなく、ただ一本の川が南北を分けているだけであった。川の先に住んでいる人々は私達と同じ人間であるが、人間が作り出した国境によって様々な理不尽を強いられている。国境ひとつによってこんなにも人の暮らしが変わってしまうことを目の当たりにし、権力の恐ろしさを感じた。韓国側は、国境沿いに立派な道路が走っているのに対し、北朝鮮側は舗装された道路もなく、貧しそうな畑ばかりみえ、非常に対照的な風景に胸が傷んだ。一部の人間の都合で作られた国境線さえなければ、川の南の人も北の人も同じような暮らしをして、当たり前近所付き合いをし、助けあい、愛しあう関係となっていたはず。それがこの川に人間のつまらない権力が働いただけで、悲しい分断が60年近くも続いている。「この一本の川はなんなのだろう、、この川が生み出す数々の不幸は何なのだろう、、なんて理不尽なのだろう、、」そのように思わずにいらなかった。これまで、北朝鮮は日本にとっても世界にとっても迷惑な国で、早く軍事政権が倒れて普通の国になってほしいとばかり思っていた。しかし、今回国境線を訪れて、北朝鮮に住んでいる人々は同じ人間であるという当然の事実を実感させられ、今後どのような政治体制になっても、北朝鮮の国民自身が幸せに暮らせるような国になってほしいと強く思わされた。

8月15日の独立記念日に独立記念館を訪れたことも貴重な経験となった。日本の植民地支配を非難する展示内容と聞いていたため、過激な展示を予想していたが、実際は予想外に穏やかな雰囲気だった。独立記念日の式典もお祭りとなっていて、日本を激しく非難するような緊張感はなかった。

しかし、展示の中には、日本ではきいたことのないような残虐な事件もあり、やはり被害者と加害者の意識差は大きく、それが現在も様々な問題を引き起こしていることが感じられた。特に、堤岩里虐殺事件の写真は衝撃的だった。独立記念館も韓国の学生と一緒に訪問したが、日本の植民地支配について何か非難されることはなく、「歴史を公正に見つめようとする姿勢に感謝したいし、日本人も韓国人もそのような姿勢であるべきだ」と言ってくれたことが印象に残っている。歴史問題については、お互いが非難しあうだけではなく(加害者である日本が非難されるのは当然ではあるが)、両国とも偏りのない視点で歴史を見つめようとする態度をとることが非常に大切だと思う。

2.3.2 韓国や他の文化についての葛藤や理解

3週間の生活の中で、韓国の文化に違いを感じても、葛藤や抵抗を感じたことはほとんどなかった。これまで海外に行く文化の違いにストレスを感じていたが、今回はドラマやその他テレビ番組などで韓国の文化を前もって知っていたため、違いに遭遇しても戸惑うことがなかったのかもしれない。また、歴史問題など政治的な話題を韓国の学生と話したこともあったが、そのようなときもお互いの考えを理解しようという姿勢でいたため、意見の相違による対立が起きることはなかった。

3.まとめ

今回の実習では、様々なバックグラウンドを持つ人と、毎日一緒に勉強したり、お話ししたり、観光したりと大変充実した時間を過ごすことができた。多くの刺激をうける中で、自分の勉強不足を感じ、勉強する時間のある大学の間はもっと勉強しなければと思わされた。語学に関しても、伝えたい事があるのに言葉が不足して伝えられないというもどかしい思いをすることがあり、普段から練習し準備しておく必要性を感じた。そして何より、初めての土地で、初めて出会う人々と生活し、これまで自分の知らなかった世界を見つけることができたのは本当に大切な経験になったと思う。国内にも国外にも自分の知らない世界は広がっているが、今回の実習を通し、新しい世界を積極的に探し自分の糧にしたいという思いが強まったことを感じている。